

会員へのアンケート結果報告

広報委員会委員長 柴田直哉

広報推進WG(現、広報委員会)では、2020年11月に会員の皆様へのアンケートを実施したので、その結果を報告する。

1. アンケートの趣旨

日本金属学会(本会)に対する会員の意識やニーズをくみ取り、サービス向上や入会促進、会員継続のための取り組みにつなげることを目的とした。

2. アンケートの概要

Google Formにてアンケートを作成し、会員へe-mailにて回答を依頼し、2020年11月18日～30日に実施した。

3. アンケート結果

(1) 回答者

本会会員4700人に回答を依頼し、560人の回答があった。回答者の所属の内訳は民間企業が35%(会員比率29%, 以下カッコ内は同じ)、大学等が38%(39%), 研究機関等が13%(8%), 学生が14%(15%)であり、民間企業の回答比率がやや高いものの、会員の構成比に比較的近い割合であった。また、年齢の内訳は、20歳代が16%(17%), 30歳代が14%(29%), 40歳代が23%(15%), 50歳代が32%(20%), 60歳以上が15%(18%)であった。

(2) 入会のきっかけ

「本会への入会のきっかけ」を複数回答可として選択していただいた結果を、図1に示す。「講演大会で発表するため」が最も多く、回答者の30%に達している。次いで、「講演大会を聴講するため」と「情報を得るため」がいずれも20%弱であった。講演大会への参加が入会の最も大きなきっかけであることがわかる。本会への入会者を増やすためには、まずは講演大会をより魅力あるものにしていくことと、より有益な情報を提供していくことが必要である。

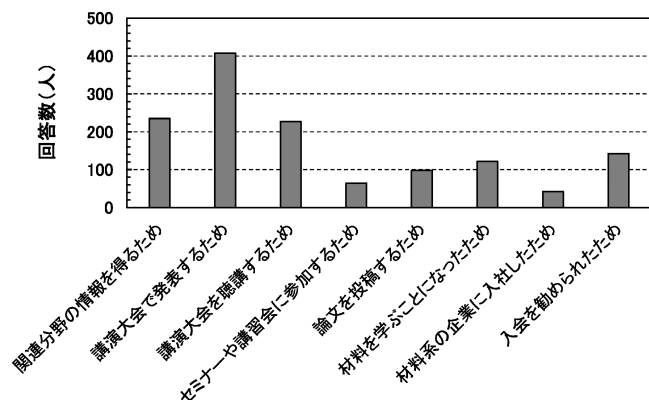


図1 日本金属学会の会員になったきっかけ。

また、328人は指導教員や上司、先輩から入会を勧められており、その70%は指導教員に勧められたものである。企業会員も含め、学生時代に指導教員に勧められて入会し、そのまま会員を継続している会員も多いことがうかがえる。

「何があれば指導学生や後輩、部下に入会を勧めやすくなるか」の問いに対する意見としては、「会費・参加費の減額」に関するものが60件と最も多く、次いで、「教育や人材育成のためのセミナー・講習会の開催」や「教科書類の充実」、「研究や技術開発の参考となる種々の情報」といった、コンテンツの充実に関するものが46件となっている。また、「研究発表」や「業務との関連」という意見もそれぞれ25件、17件と比較的多かった。本会では近年、学生員や35歳以下の若手会員の会費の減額、65歳以上の会員の講演大会参加費の無料化、60歳以上の終身会員制度の導入といった取り組みを行ってきたが、これらが十分に周知されていないことも、これらの回答につながった可能性がある。一方、会員のニーズに沿ったコンテンツを提供していくことが会員になっていただくためには重要であることがうかがえる。

(3) 会員になっていて良かったことや会員を続けている理由

「本会の会員になっていて良かったこと」を複数回答可として選択していただいた結果を、図2に示す。回答者の60%以上が「研究を発表できた」と「必要な情報が得られた」を挙げており、研究発表や情報収集の場として本会は有益であると評価されているようである。また、次いで半数近くが「他の研究者や技術者と交流が図れた」を挙げている。それらの結果、50%弱が「研究や技術開発に役立った」と評価したものであると思われる。今後も、多様な研究者や技術者が研究成果を発表し、交流する機会を提供していくことが必要である。

所属別にみた結果では、大学・研究機関および学生では「発表できた」、「必要な情報が得られた」の順に多く、企業では「必要な情報が得られた」、「研究や技術開発に役立った」の順であった。これにより、本会は大学等では研究成果発表の場としての、企業では情報収集の場としての期待がより高いことがうかがえる。

会員を続けている理由として挙げられた意見では、「情報収集できること」が148人と最も多く、次いで「専門分野の学会であること」が58人、「発表するため」が48人の順であった。本会の会員を続けていただく上では、有益な情報をい

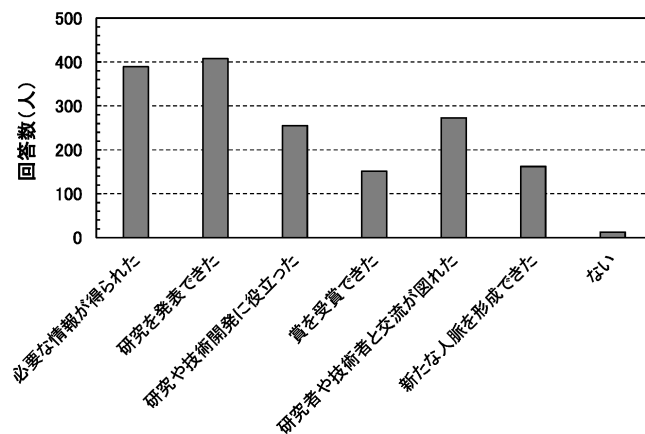


図2 日本金属学会の会員になっていて良かったこと。

かに提供し続けられるが大切である。

また、学生に対しての「何があれば卒業後も会員を続けたいか」という問いに対しては、「業務に必要であること」や「会費や参加費が安いこと」を求める意見が複数あった。

(4) 日本金属学会への期待

「本会に期待すること」を複数回答可として選択していた結果を、図3に示す。「最新の研究や技術開発の情報」が最も多く、回答者の82%に達する。次いで「研究成果の発表」が77%、「交流や人脈形成」が55%、「情報交換」59%と続き、これらへの期待が高いことがわかる。また、「知の蓄積や伝承」、「教育や人材育成」といった啓発への期待も比較的高く、これは企業の会員でより高い傾向にあった。一方、大学等では「受賞」への期待が高い傾向にあった。

(5) 他の学協会との比較

「他の学協会に比べて、期待に充分応えているか」との問いに対する回答結果を図4に示す。「はい」が40%であり、「いいえ」は10%未満であったが、「どちらともいえない」も半数にのぼる。

その評価の理由を記述していただいた回答では、「はい」の理由として挙げられたのは、「情報収集」に関するものが34件と最も多く、次いで「講演大会」に関するものが27件、「まてりあ」に関するものが19件であった。「いいえ」の理由として多かったのは、「講演大会」に関するものが12件、「対象分野」に関するものが10件であった。また、「どちらともいえない」の理由としては、他学協会との差は無い、比較できないという意見が多かった。講演大会は期待に応じて

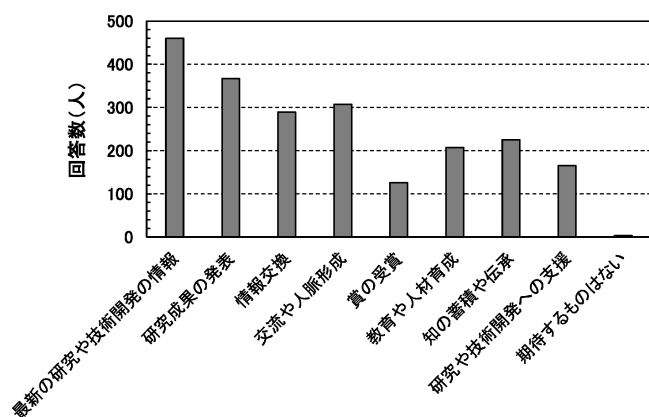


図3 日本金属学会に期待すること。

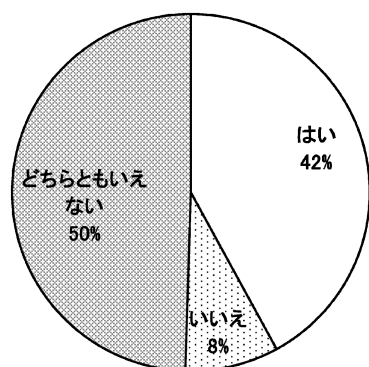


図4 他の学協会に比べて日本金属学会は期待に応えているか。

いるという評価の一方で、魅力的ではないと評価する会員も一定数あり、意見を参考に、今後も改善を図っていくことが必要である。

なお、本会以外で入会して活動している学協会として最も多かったのは日本鉄鋼協会であるが、回答者の約20%であった。次いで軽金属学会、日本機械学会、応用物理学会と続くが、いずれも10%以下である。

「他学協会に比べて(日本金属学会が)優れているところは何か」との問いに対する意見としては、「対象分野の幅広さや多様性」が75件と最も多く、次いで「会員や関係する会員が多い」が35件、「アカデミックでレベルが高い」が33件、「機関誌の発行」が26件の順であった。どちらかといえば、大学等のアカデミックな会員が幅広く集まっていることが優れているところであるとの意見が多いことがわかる。

逆に、「他学協会に比べて(日本金属学会が)劣っているところは何か」との問いに対する意見としては、対象分野が広いことの弊害(偏り、ばらばら、浅い等)についての意見が46件と最も多かった。また、アカデミックであることの裏腹として、産業界とのつながりが弱いとの意見も42件と多い。

(6) サービスについて

本会が提供している「各種サービスのメリットの程度」についての回答結果を、図5に示す。メリットが高いと評価されたサービスは「講演大会」と「まてりあ」であり、いずれもメリットが高いと感じている数が回答者の40%を超えている。ただし、会員の所属によっても感じ方は異なり、年齢の高い層や企業では「まてりあ」の比率が高く、大学・研究機関や学生では「講演大会」の比率が高い傾向にあった。

一方、「メリットが低い」と評価されたサービスとしては、「国際交流」や「研究助成」が挙げられる。いずれもメリットが低いと感じている数が回答者の30%を超えている。この2つのサービスに対しては「該当しない」という回答も多く、今後はより幅広い会員を対象としたサービスとしてこれらを拡充する必要がある。また、「日本金属学会誌」に関しては、「メリットが小さい」という回答数は全体の15%程度であるが、大学・研究機関ではその割合が25%程度に増加している。一方、「表彰」のメリットが小さいという回答数は回答者全体では15%であるのに比べて、企業では30%程度に高くなっている。日本語の論文誌である「日本金属学会誌」への投稿・掲載は大学や研究機関では評価対象とみな

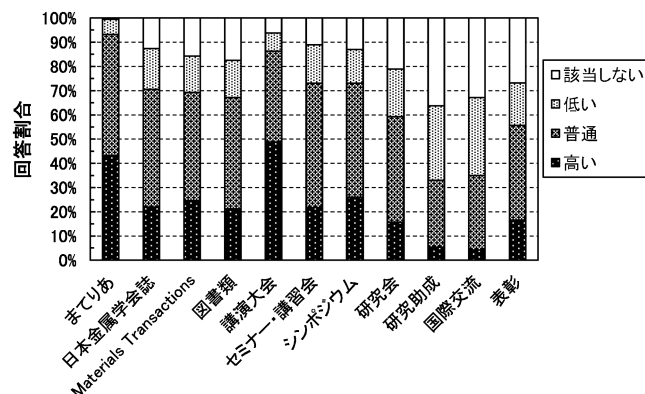


図5 日本金属学会のサービスのメリットの程度。

されにくいために「メリットは低い」という評価になっていると思われるが、企業では「まてりあ」、「講演大会」に次いでメリットが大きいと評価されており、他の機関誌とのバランスを取りながら充実させていくことも必要である。

研究助成については、2020年度から45歳以下の比較的若手の研究者に対する「フロンティア研究助成」事業を開始し、2020年度は10件の研究に対して助成金を支給した。また、表彰についても、企業の技術者・研究者を対象とした表彰もあり、その他の賞も企業の研究者も受賞しやすいように、業績評価の項目として特許を加える等の見直しを2020年度に行っている。これらの取り組みが十分に認知されていないことも、これらの評価が低かった原因と思われる、これらを周知するとともに一層の充実を図っていく必要がある。

「改善してほしいサービス」を複数回答可として選択していただいた結果を、図6に示す。改善してほしいサービスとしては、「機関誌」、「講演大会」、「会費や参加費」がいずれも回答者の20%程度で多かった。次いで、「ホームページ」が15%程度となっている。「会費や参加費」については、上述したように近年種々の取り組みを進めており、まずはこれらの周知と理解に向けた活動を行っていくことが必要である。また、ホームページについては、情報によりアクセスしやすいようにリニューアルする必要がある。

所属別にみた結果では、企業では、「セミナーや講習会」や「情報発信」の割合が高く、大学・研究機関では「研究支援」の割合が高くなっている。研究支援については、上述したように研究助成事業の周知が必要である。今後、セミナーや講習会の充実も図っていく必要がある。

「改善してほしいこと」の具体的な意見として挙げられたのは、「講演大会」に関するものが41件と最も多く、ついで「情報発信」が29件、「会費・参加費の値下げ」が27件、「Materials Transactions」が18件、「まてりあ」が17件の順であった。講演大会については、セッション分類やセッション数、講演時間、プログラムや概要の公開方法等に関する意見が多かった。情報発信については、ホームページ、技術情報等の発信についての意見が多かった。「Materials Transactions」では、インパクトファクターの向上によるプレゼンスの向上についての意見が、「まてりあ」では、記事数の増加、冊子送付に関する意見が多かった。

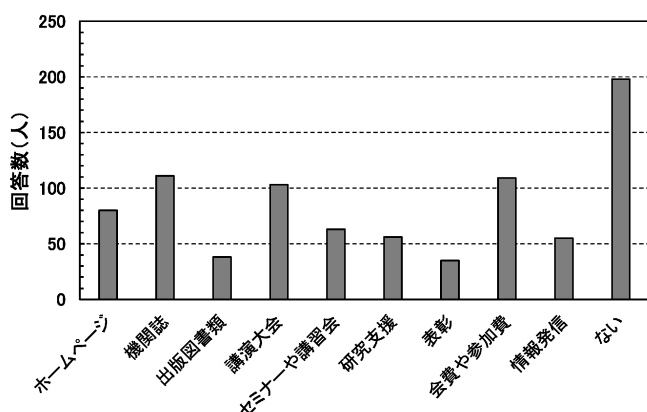


図6 改善してほしいサービス。

また、「加えてほしいサービス」としては、「技術サポート」、「学生や若手の支援」、「セミナー」、「教育・人材育成」という意見が多かった。

一方、不要なサービスとしては、「まてりあ冊子の送付」が18件と最も多かったが、「まてりあ」は日本金属学会に関連する情報や会員の活動を会員全員に能動的に伝える数少ない手段の一つであり、冊子を手にとることだけでも会員であることを認識してもらう意義はあると考えられる。現在、冊子の購読に代えて電子ジャーナルのみを購読することも可能であり、冊子が不要な会員は会員マイページで変更できるようになっている。今後、冊子の購読を停止した会員に対しても学会からの情報を確実に伝えるために、現在「まてりあ」発行時に送信しているメールを、掲載記事や情報によりアクセスしやすい内容や形式のメールマガジンとして配信することが必要になる。

(7) 日本金属学会のイメージ

本会に対して持っているイメージとしては、「金属に関する主要な学会である」が63件と最も多く、「学術的である」が48件、「伝統がある」が41件と続き、旧態然とした印象が強いことがわかる。本会が、伝統に裏打ちされながら、先進的な研究や開発にも関係していることの認識を持てただけるような広報活動も必要である。

(8) 情報発信について

「情報を得るために普段利用している手段」を複数回答可として選択していただいた結果を、図7に示す。90%以上の回答者が「インターネット」を利用している。次いで「刊行物」も70%を超えており、冊子体の「まてりあ」も意味があることが推測される。「SNS」の利用者は20%以下であるが、学生ではその割合が増えており、年代によって情報発信の手段を変える必要がある。

(9) 周知不足等による誤解に基づく回答について

アンケートへの回答や意見の中には、本会の運営や活動の実態が十分に理解されていないことに起因したものが少なからずあった。それらの主な回答と現況を表1に示す。本会の運営改善への取り組みや活動状況を正しく会員に周知する努力が、これまで不足していたためと反省させられる。今後は、広報・理解活動を充実させていくことが重要な課題である。

4. まとめと今後について

今回のアンケートでは、講演大会や機関誌といったこれまでの主要事業の改善に加え、教育や人材育成に関する事業の

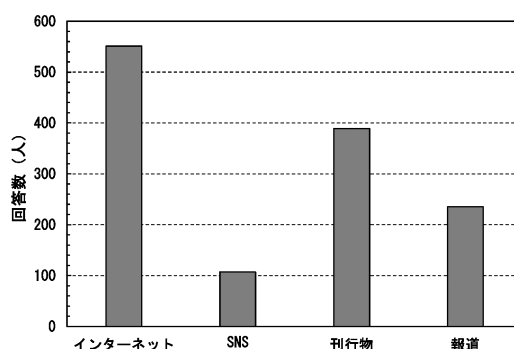


図7 情報を得るために利用している手段。

表1 誤解に基づくアンケート回答と現況。

No.	回 答	現 況 と コ メ ン ト
1	会費が高い	主要20学協会の一一般会費の平均は9,800円、学生の会費の平均は4,200円であり、それらと比べて高くはありません。学生会員の会費は5,000円から4,000円に値下げいたしました。
2	若手の会費を軽減してほしい	30歳までの会費は、正会員の半額の5,000円に軽減いたしましたので、若手の方はぜひご入会ください。
3	シニア会員制度を設けてほしい	60歳から65歳までの会員には終身会員制度を設けました。65歳以上の講演大会参加費は無料としておりますので、ぜひご参加ください。
4	長期会員の会費を軽減してほしい	会員歴40年で71歳以上の会員には会費無料の永年会員制度がございますので、該当の方はぜひお申し出ください。
5	「まてりあ」を電子化し、冊子と選択できるようにしてほしい	電子ジャーナル化されており、選択できるようになっております。会員マイページから変更可能ですので、ご利用ください。
6	「まてりあ」が薄い	近年、記事数を増やしてきており、他学協会の会報・会誌と比べても薄くはございません。主要20学協会の平均は720ページで、「まてりあ」は2019年は816ページ、2020年は690ページです。引き続き、「まてりあ」の充実にご協力を賜りますようお願い申し上げます。
7	「日本金属学会誌」、「Materials Transactions」のフリーアクセス化してほしい	「日本金属学会誌」は発行時に全てフリーアクセスです。「Materials Transactions」は発行半年後に全てフリーになります。投稿料を追加すればフリーを選択可能です。また、編集委員推薦でのフリーもございます。
8	出版図書の割引をしてほしい	会員は割引価格(20～30%割引)で購入が可能ですので、ぜひご利用ください。
9	講演大会の登壇料が高額である	会員の登壇料は不要です。また、非会員の参加者には1年間の会員資格を付与しています。
10	講演概要の分量が少ない(1ページは必要)	かつて概要はA4用紙で1/3ページでしたが、2015年以後は1ページに増やしています。
11	CDの予稿集は不要である	2019年にDVD予稿集の発行を終了いたしました。
12	セッションが材料や技術をベースにしており、新しい手法・材料に関する発表が容易でない	セッションを再編し、材料プロセッシングや先進機能材料といったセッションを加えて、発表できるようにいたしました。
13	製錬系の発表の場をなくしてしまった	材料化学や材料プロセッシングのセッションを復活させました。
14	セミナーへの参加費割引を設けてほしい	参加費の会員割引がございますので、ご利用ください。
15	研究助成制度がない	研究助成の制度として2020年に、45歳以下を対象としてフロンティア研究助成を設けました。奮ってご応募ください。
16	分科会に無料で入会させてほしい	分科会への入会は無料です。委員は公募しておりますので、ぜひご応募ください。
17	授賞が特定の研究分野、大学、研究室、企業に偏っている	授賞は公募・推薦制であり、所属等に制限はございません。分野別の賞は偏りが生じないように学術部門と技術部門に統一いたしました。企業に対しては論文だけでなく特許も評価するようにいたしました。
18	フェロー制度を設けてほしい	2018年にフェロー制度を設けました。ふさわしい方をご推薦ください。
19	表彰の数は減らしても良い	2019年に表彰を見直し4つの賞を廃止いたしました。
20	技術開発賞の応募にお金を取るのをやめてほしい	2019年に他の投稿記事の投稿料と同じ料金にいたしました。積極的なご応募をお待ちしております。
21	講演大会委員が特定の研究分野、大学、研究室、企業に偏っている	講演大会委員は公募しておりますので、ぜひご応募ください。
22	理事の90%以上が大学から選ばれている	本部幹事を設けて、必ず4人の理事は企業から選ぶようしております。2021年度の大学等の理事の割合は77%です。
23	役員をもう少し広い領域から登用してほしい	代議員は会員であれば誰でも立候補できますので、ぜひ立候補ください。理事は代議員の互選で選ばれています。
24	学生への企業PRの場やキャリアサポートの提供をしてほしい	春期講演大会で企業説明会を開催しております。オンライン開催では、企業による学生キャリアサポートセミナーを開催します。学生の皆様にお勧めください。

拡充や情報発信の重要性を改めて認識することができた。この結果を参考に、事業の改善や広報の充実に取り組んでいく。

今回のアンケートに回答いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。また、アンケートの実施に当たっては、広報推進

WG(現、広報委員会)の安藤智洋、植田圭治、好田 誠、関谷茂樹、高橋有紀子、中村篤智、平田秋彦、松田光弘、宮本吾郎の各委員にご尽力いただいた。(広報推進 WG(現、広報委員会)委員長 柴田直哉、事務局長 山村英明)

(2021年5月13日受理)[doi:10.2320/materia.60.435]